



○ ユニバーサルデザインについて

ユニバーサルとは英語で「普遍的な、すべての」という意味です。したがってユニバーサルデザインとは、製品、建物、環境を、あらゆる人が利用できるようにはじめから考えてデザインするという概念です。

障がい、年齢、性別、言語等、人が持つそれぞれの違いを超えて、すべての人が暮らしやすくなることを前提としたこの概念は、アメリカの建築家であり工業デザイナーであった故ロン・メイス氏によって提唱されました。

ロン・メイス氏は自らの車椅子利用者という立場から、バリアフリーデザインという概念が障がい者以外には魅力がなく、価格も高い上に美しいデザインのものがないという現実を直視しました。

そしてその現実を変えていくために、「すべての人のためのデザイン」という方向で考えていくことを提案し、ユニバーサルデザインと名付けたのです。

バリアフリー	障がい者・高齢者を主な対象として、生活の支障となるものを除去していくという考え方
ユニバーサルデザイン	年齢・性別・人種などにかかわらず、すべての人が利用しやすい生活環境をデザインするという考え方。広い視野で見れば、バリアフリーはユニバーサルデザインの一部と考えられる

○ ユニバーサルデザインの7原則

1 「公平性」 (Equitable Use)

身体的、心理的に使う人を選ぶことなく、誰でも公平に操作できること。



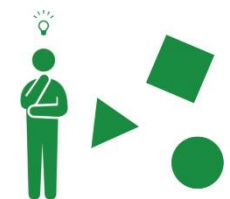
2 「自由度」 (Flexibility in Use)

使い方を自由に選択でき、様々な使い方ができること。



3 「単純性」 (Simple and Intuitive Use)

使い方が簡単で直観的にわかること。



4 「明確さ」 (Perceptible Information)

使う人にとって、その情報が理解しやすいこと。



5 「安全性」 (Tolerance for Error)

使用時に事故の心配が無く安全であること。また、万が一、事故やエラー、ミスが起こった際に簡単に原状復帰（元の状態に）できること。



6 「持続性」 (Low Physical Effort)

少ない力で使用でき、からだへの負担も小さいこと。また、作業量が少なく楽に使用できる工夫がなされていること。



7 「空間性」 (Size and Space for Approach and Use)

十分な大きさや広さが確保され、使用する人の体格や姿勢、移動能力に関係なく使えること。さらに、運びやすく、しまいやすく、かさばらないもの。



○ ユニバーサルデザインの身近な例

自動ドア

誰にでも簡単に使用できる自動ドアはユニバーサルデザインの代表例といえます。車いすを使用している人だけでなく、両手に荷物を持っている人や子どもを抱いている人などすべての人に便利です。



シャンプーの容器の突起

気を付けてみると、シャンプー容器には、突起がついています。これは、触っただけで同じような形をしたリンスの容器と区別するため、リンスの容器には、この突起がありません。

目の不自由な人だけでなく、頭を洗っているときなどの目をつぶっている場合にもシャンプーとリンスを区別することができます。



ピクトグラム(絵文字)

交通施設、観光施設、商業施設など様々な場所で使われているピクトグラムは、海外からの旅行者や細かい文字の見えにくいお年寄りなどすべての人が伝えたいイメージを一目で理解することができます。

